



2021年4月オリエントコーポレーション(オリコ)の会長河野さんに、マスクを着用しソーシャルディスタンスを取りながらお話を伺ってきました。



松下: 入学当時の附属の印象は?

河野: 昭和44年(1969年)に附中に入学し6年間西条から通いました。小学生時代は体格が大きい方だと思っていたのですが、市内から通ってきている附中の同級生はさらに体格も良く大人びて見え、カルチャーショックを受けました。自宅の西条から通称“汽車通学”の自分は田舎者なんだというコンプレックスを感じましたね。中学1年の担任はサッカー指導で有名な故福原黎三先生でした。残念なことにその2月に逝去されました。初めて身近な方が亡くなり、中1だった当時は生と死ということもあまり捉え切れておらず、ただただショックを受けたことを覚えています。

松: 在学中の思い出をお願いします。

河: 最初は柔道班に入りましたが、不真面目な生徒で受け身の練習とプロレスごっこで1年位しか続きませんでした。中学2年から熱中したのが「推理小説SF愛好会」でした。ちょうどアガサ・クリスティやエラリー・クイーンを読み始めた頃で、同級生で同好の故坂下幹夫くん、鈴木亮一くん、水本和実くん達と立ち上げました。ショートショートを書いたりしてお互いに論評しあったり、ガリ版で小冊子を作って文化祭で配ったりしていました。これは高Ⅱ頃まで続けて、同好会の人数も10人位まで増えました。今読み返してみると非常に恥ずかしいのですが、大学ノートで50冊程は作ったのを覚えています。それと宮島マラソンですね。運動は得意なほうではありませんでしたが、走ることは結構好きで、マラソン大会の前は翠町の校舎周囲を放課後によく走っていました。走った後は腹が減るので学校のはす向かいにあった「びっくり屋」に。その当時はうどんが30円で

ラーメンが50円だったかな?頻繁に行っていましたね。また、西条から通っていたので5番線の仲間というか、仲間意識が芽生えて。5番線の比治山線は“汽車通学”の仲間が多かったですね。今でも5番線の仲間が集まると、当時附属の隣駅にあった広陵高校のお兄さんが怖かったことや比治山女子高校の女子生徒のことなど話題に出ます。附属での6年間は楽しい思い出ばかりでした。

松: 大学時代をお聞かせください。

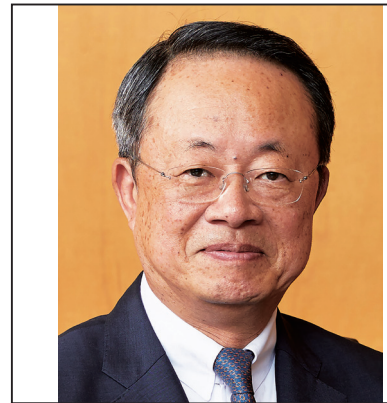
河: 昭和50年(1975年)に東京大学文二(経済学部)に入学しました。中学校で西条から広島に出てきた時と同じように、広島から東京ですから再度カルチャーショックを受けましたね。大学では「一生懸命図書館に通って勉強していました」と胸を張って言いたいところですが、いわゆる普通の学生。今思うと、あれだけ時間があつたのだからもっと勉強しておけば良かったと。無事に4年間で卒業しましたが、不思議なことに今でもたまに「単位が不足して卒業出来ない」という夢を見ることがあります。

松: 大学卒業後について教えてください。

河: 海外で働いてみたいという願望があり、商社か銀行への就職を考えていました。都市銀行は海外進出を積極的に始めていた時代で、第一勧業銀行に入行しました。最初の支店は大阪の梅田でした。その後、海外勤務を希望していたところ、昭和59年(1984年)にアメリカのコネル大学ビジネススクールに留学する機会を得ました。これは自分の人生の転機となりました。当時の日本は高度成長期を経て、「Japan as No.1」ともてはやされる時代でした。現地のビジネススクールでも日本の終身雇用制や年功序列等が研究テーマになっていました。一方、アメリカは不況で、日米貿易摩擦の真っ只中。日本人が標的になった物騒な事件もありました。ビジネススクールを卒業して帰国し、銀座の支店で融資業務を行いました。当時はバブル真っ最中で土地神話の時代。「24時間働けますか?」というCMが流れていた頃でもあり、深夜まで必死に働いていました。それが当たり前の時代でした。

松: 当時の銀行は大変な時期だったと思いますが...

河: 1990年代の後半はバブル崩壊で銀行が置かれた環境は非常に厳しいものでした。複数の銀行が破綻し大手



P r o f i l e

1975年3月：広島大学附属高等学校卒業(65回) 1979年3月：東京大学経済学部卒業 同年4月：(株)第一勧業銀行(現、(株)みずほ銀行)入行 2013年4月：(株)みずほ銀行 代表取締役副頭取 同年7月：(株)みずほフィナンシャルグループ 副社長執行役員(兼務) 2016年6月：(株)オリエントコーポレーション 代表取締役社長 2020年6月：(株)神戸製鋼所 社外取締役(監査等委員)(現任) 同年6月：(株)オリエントコーポレーション 取締役会長(現任)

都市銀行に公的資金が注入され、業界再編が一気に進みました。銀行の生き残りをかけた時代ですね。その頃は企画担当で銀行業界を代表して当時の金融監督庁と折衝を重ねていました。みずほの三行統合(第一勧業銀行・日本興業銀行・富士銀行)の時には人事の統合に携わりました。そういった仕事を中心で結局海外には行けませんでした。やりがいのある仕事でしたね。私の40年近い銀行員生活を振り返ると、最初の10年位はどんどん右肩上がりでしたが、その後のバブルとその崩壊、不良債権処理と金融再編、そして平成20年(2008年)のリーマンショックと、なかなか世の中思うようにいかない、と。金融の歴史の大きな転換期の中で、私の銀行員生活も新しい金融のあるべき姿を“模索”しながら思い悩んだ日々でした。当時を振り返ると新しい秩序を作りたいという気持ちで仕事に燃えていたと思います。従来の秩序を否定するという大変な激動の時代でしたが、周りも新しい姿を目指さねばと必死でした。もちろん全てが達成できたわけではありません。仕事というのは絶えず“模索”し続けるものだと思います。自分たちがここまで辿り着いても、世の中はもっとその先をいっている。そう痛感します。

松: みずほアカシア会があったとか?

河: 55回の福田眞先輩や、62回の恵

鳥克芳先輩がいっぱいいました。正式にはみずほアカシア会ではなく「みずほ赤ヘル会」で他校出身の方々も入っておられました。

松：現職について教えてくださいか？

河：平成28年(2016年)にオリコに移りました。オリコは広島発祥で、昭和29年(1954年)協同組合広島クーポンとして設立しました。その名の通り、最初はクーポン券の発行による月賦払いという形でスタートし、その後社名が広島信販、オリエンファイナンスとなり、平成元年(1989年)に現社名になりました。実は私とオリコ、カーブというのは不思議な縁というか偶然が重なっているんですよ。昭和50年(1975年)に私は大学進学で東京に出てきた同じ年、オリコは東京進出して全国展開を開始、カーブはセ・リーグ初優勝、そして昭和54年(1979年)に私は銀行へ就職、オリコは東証一部に上場、カーブは初の日本一と。どう考えてもこの3者は切っても切れない関係なんですね(笑)。

松：確かに運命の赤い糸ですね。

河：広島発祥の企業なので、東京でも広島出身の方が多かったです。オリコ赤ヘル会というのもあります。一世代前までは社内公用語が広島弁だったようです(笑)。今でも広島でのシェアは高く、カーブやサンフレッチェのスポンサー試合もさせて頂きました。オリコの歴史を振り返った時に、戦後の国民生活の向上に大きく貢献してきたと自負しています。戦後の成長に合わせて冷蔵庫・洗濯機・テレビなどの白物家電、さらには車などがどんどん供給されましたが、当時は銀行の個人ローンなどなかった時代です。そこで信販の仕組みが登場。皆さんが月賦制でモノを入手できるようになりました。当社の基本理念に「わたしたちは信頼関係を大切に、お客さまの豊かな人生の実現を通じて社会に貢献する企業をめざします」というものがあります。人生を豊かにする、生活を豊かに

にするという意味において、我々の先輩が広島の地で信販業を始められ、地域貢献を担ってきたと本当に実感しています。オリコは今年で67歳、私よりちょっと先輩です。

松：今の時代をどうお考えですか？

河：一昔前のような消費がどんどん伸びる時代ではありません。特に今のコロナ禍ではそうです。しかし、クレジットカードの利用状況などを見ても、生活に密着しているようないわゆる「エッセンシャル」と呼ばれる分野などは手堅い伸びをしています。またキャッシュレス需要は伸びています。クレジットカード以外でも電子マネーやQRコード決済など、新しい技術開発がどんどん進んでいます。安心・安全なキャッシュレス社会を作っていく上においても当社は貢献しています。テクノロジーの進化にしっかりと追いついていくとともに、個人情報等の安心・安全をしっかり担保しながら豊かな消費生活をサポートしていきます。

松：最近の趣味などは？

河：附属時代の宮島マラソンについてお話しましたが、現在マラソンを趣味としています。初のフルマラソンは51歳の時の東京マラソンです。その後これまでに17回のフルマラソンを完走しました。ベストタイムは54歳の時の湘南国際マラソンで3時間54分です。

松：そのタイムはすごい!!

河：昨年からコロナの影響もあり参加できていませんが、今でも健康維持のためにジョギングをしています。フルマラソンに再度挑戦となるとブランクがあり不安もありますが、水泳の池江璃花子さんがあれだけ頑張っているんですから私も頑張ろうと。まあ20歳と64歳でかなり差がありますが(笑)。

松：アカシア会や故郷についての想いをお聞かせ下さい。

河：アカシア会を通じて同窓の絆が綿々と続いていることに本当に敬意を表します。私は東京広島県人会にも参加しますが、全国47都道府県の中でも



左から松下(75回) 河野氏(65回) 大藪(86回)

広島県人会が一番大きな組織だと聞いています。やはり広島人は郷土愛・母校愛が人一倍強い。18歳で上京してからは生活基盤も県外となりましたが、広島に対する思いは変わりようがありません。プライベートでも年に1回は必ずマツダスタジアムでカーブ観戦をしています。

松：最後に後輩へのメッセージを。

河：私の信条として会社でも繰り返し伝えているのが「Vision・Mission・Passion」です。今の在校生や若い方々には、まずは自分が何をしたいのかというVisionを持っていたきたいとお伝えしたいです。私は海外に行きたいというVisionを持っていたので、Missionとして英語を勉強していました。Visionが無いと何をすべきかというMissionも存在しません。例えば小さいことでも構わないから3年後位の手が届きそうな目標をまずは見つけられたいかがでしょうか。3つの中で最も重要なのはPassionです。情熱がないと何も実現できません。もちろん途中で挫折することもありますし、その時に気持ちを切り替えることも大事です。絶えず自分の数年後・将来を考えて、それを実現するためには今何をしなければならないか、そしてそれに熱い気持ちで取り組むことを後輩へのメッセージとさせて頂き下さい。絶えず自分の姿を模索し続ける、そのサイクルを繰り返すのが人生だと思いますよ。

松：本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。

松下 督克(75回)

大藪 盛生(86回)

